

平成20年2月1日

各 位

東京都新宿区西新宿六丁目10番1号
株式会社フォーサイド・ドット・コム
代表取締役 安嶋 幸直
(JASDAQ・コード:2330)
問い合わせ 取締役 経営企画担当 川崎雅嗣
T E L 03-5339-5820 (IR 問合せ窓口)

業績予想の修正及び見通しに関するお知らせ

当社は、平成19年12月14日に発表致しました、平成19年12月期（平成19年1月1日～平成19年12月31日）の通期業績予想を修正致しますのでお知らせ致します。また、本資料において単体の業績の見通しについてもお知らせ致します。

記

1. 平成19年12月期連結業績予想の修正（平成19年1月1日～平成19年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想 (A)	9,500	100	50	100
今回修正予想 (B)	10,410	290	140	100
増減額 (B-A)	910	190	90	0
増減率	9.6%	190.0%	180.0%	—

2. 修正の理由

当社は国内コンテンツ事業に経営資源の集約を行うことを目的として、連結子会社の非連結化に向け、北米地域の連結子会社である Zingy, Inc. の非連結化に向けた株式売却の取り組みを行っておりますが、現状連結子会社として連結業績に含まれております。前述の取り組みと並行して、当該子会社において企業価値向上を目的とした再編・リストラクチャリングを実施し、高収益事業である携帯電話のアプリケーション事業へ経営資源の集中を行いました。その結果、当初計画よりも当該子会社の売上が順調に推移したことにより売上高は10,410百万円となる見込みです。

営業利益につきましては前述の要因と併せてリストラクチャリングの効果によって関連費用が抑制できたことにより営業利益は290百万円となる見込みです。

経常利益につきましては前述の売上高、営業利益の要因と併せ、為替差損を主な要因とした営業外損益を計上したことにより経常利益は140百万円となる見込みです。

当期純利益につきましては、前述の要因により修正の可能性があることが想定されますが、子会社（Zingy）における法人税等の税金の影響を現在精査中であるため、現時点での修正は行わないものとし、前述の影響が判明次第、別途開示致します。

3. 平成19年12月期単体業績の見通しについて（平成19年1月1日～平成19年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
業績見通し	百万円 2,720	百万円 △380	百万円 △360	百万円 1,250

※平成19年12月期（平成19年1月1日～平成19年12月31日）の単体業績につきましては、業績予想を開示しておりません。また前期につきましては期中において事業年度の末日を10月31日から12月31日変更しており14ヶ月決算となっております。

（ご参考）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前期実績 （平成18年12月期）	百万円 3,126	百万円 △3,160	百万円 △2,218	百万円 △60,155

4. 見通しの理由

売上高につきましては、ハイスペック端末向けの音楽、映像や書籍等の3Gモバイルコンテンツ事業に注力したことにより2,720百万円となる見込みです。

営業利益につきましては前述の要因と併せて、収益性を重視した映像・音楽ソフトへのライセンス投資及び製造管理体制の強化による原価の削減並びに高収益である3Gコンテンツ事業に注力したことにより収益につきましては大幅に改善することが出来ました。一方で下期より売上規模の拡大に向けたプロモーションを積極的に展開したことにより営業利益は△380百万円となる見込みです。

経常利益につきましては前述の売上高、営業利益の要因と併せ、営業外損益として為替差損及び受取利息を計上したことにより経常利益は△360百万円となる見込みです。

当期純利益につきましては、上記の要因と併せて、平成19年7月2日付の「特別利益の発生に関するお知らせ」のとおり、以前に買収した子会社の買収金額の一部をアーンアウト（成果によって発生するインセンティブ）契約締結の上、未払い金として計上しておりましたが、この対価の評価方法について協議を行った結果、未払いとなっていた金額の一部を支払う必要がなくなったことにより発生した特別利益の要因により1,250百万円となる見込みです。

上記の予想及び見通しにつきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想及び見通しの数値と異なる場合があります。

以 上